

住みよい町づくりに向けて

遠藤 正久

こんにちは。今回、子母口北町会を紹介いたします。
南武線武蔵新城駅より西南に徒歩約三〇分位の所で、たちばなの遊歩道でもお馴染みの橋樹神社や子母口貝塚がある町会です。
又、江川せせらぎ遊歩道に接する(厳川橋く中之橋間)約七五〇メートルの清掃活動に力を入れています。
町会の世帯会員数は一七五〇世帯で大所帯な町会です。



橋樹神社で行われた防災訓練の様子

を掲げての手腕が楽しみです。
そこで直談しお話を伺いました。
「日頃は町会の諸行事にご協力を賜り誠に有難うございます。町会長の大役を引き受けることになり、その重大さに身の引き締まる思いです。大変微力ですが誠心誠意努めて参りますので、何卒ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。」

町会の主な各担当部長に活動の一端を!地域の絆を大切に!と文化部長、水守昭雄氏。日頃の防火防災は町ぐるみで防災訓練に参加を呼びかける防火防火部長、吉野豊氏。
新しい会長の下で美化部長、五十嵐勲氏。交通ルールを守り安全な町を交通部長、成田光夫氏。体力向上と橋地区連合親子運動会総合優勝の連覇をスポーツ部長、木佐貫一年氏。

第5回せせらぎ・シンポジウム せせらぎの問題点が見えてきた

せせらぎネット副代表 松本浩次郎

「第5回せせらぎシンポジウム」が、6月16日(日)せせらぎ老人ホームで開かれました。
パネラーには川崎市の下水道局山岸和則課長、建設緑政局古屋栄課長とEM普及及活動研究会吉田賢治代表、森とせせらぎネットワーク田辺勝義事務局長が並び、コーディネーター松本浩次郎が開かれました。
代表・平井資嘉寿の挨拶に続き、前出の二課長から第4回シンポジウムで話された問題点「夜間照明、老朽遊具、腐った水路柵、放置自転車」の改善が説明され、「ミラー設置など交通安全も実施されたことが報告されました。
ついで吉田代表から「川崎市の藻対策」では「完治しない」ので、「EM液の採用を」と迫り、田辺事務局長からは「せせらぎ開設の原点に返った抜本対策を」との指摘があり、問題点が二つに絞られてきたことが確認されました。

「水際柵の腐食と、それも原因している『土の目減り』(場所によっては15cmも)が、明津町会ボランティア部(管理運営協議会)の出席者から指摘され、「目減り」が広い範囲で起こっ



ているので、可能な場所から「回復土盛りをして欲しい」との提案に、大勢の参加者から賛同の声が上がり、古屋課長から「高津区連絡協議会」で申し出れば、具体的に対応する。との前向きな回答を得ました。
下水道局・前任課長の「川崎市」の藻対策は「費用対効果」が低く、参会者からも「藻対策になっていない」との指摘が上り、藻の抜本対策はEM液で吉田代表が執拗に粘りましたが、『EM液の実証実験を』と山岸課長の姿勢は変わりませんでした。
せせらぎネットが計画中の『実証実験①せせらぎでのモデル実験、②井田山の水質浄化実験』を出来るだけ早く行い、『③せせらぎ水路の実験』につなげてゆくという道筋の見えてきた実り多いシンポジウムではなかったでしょうか。

森とせせらぎネット及び関連団体の行事

- ◎森とせせらぎネットワーク
灯籠流し 8月18日(日)6時半〜8時 管理棟・東屋周辺
雨天中止 灯籠キット300円 予約等 766-0550(田辺)
- ◎ひとみ座寄席を楽しむ会
親子夏祭り ひとみ座で
8月17日(土)12時〜4時半 入場無料 フラ、けん玉、素人落語など舞台企画や出店あり
- ◎神庭・里山を楽しむ会
ソーマン流し 8月4日
14日(水) ①草刈り ②大根種まき
24日(土) 草刈り
- ◎井田山・市民健康の森を育てる会
井田山クリーンデイ 8月1日(水)
- ◎井田山子保存会
参加者募集中 参加無料 稽古 毎週金曜日7時〜8時半 井田神社
- ◎ひとみ座
◎乙女文楽教室 受講生募集 7月30日〜9月15日(11日間稽古) 参加無料 9月15日 発表会 ひとみ座
◎乙女文楽親子で体験ワークショップ
8月18日(日)10時〜12時ひとみ座



橋樹神社の鳥居正面

過密な年間行事を子供の育成に子供会育成会長、矢野暢彦氏。他に関連関係団体役員を合わせると総勢六十三名になります。
由緒あるこの町会を住みよい町づくりの為に町会一体となり頑張って頂きたいと思ひます。

地球の平和を守るコイン3個

竹村トシ子

毎年恒例となったせせらぎ灯籠流しのオープニングは、ひよっこり瓢箪島でお馴染みのひとみ座の乙女文楽が始まります。
人形浄瑠璃文楽から生まれ、より親しみやすく工夫をこらした伝人形芝居です。
文楽は一体の人形を三人がかりで遣う『三人遣い』というスタイルで、そのため細かいしぐさや深い感情表現が可能となり、歌舞伎と人気を争い合うほどに発展したのです。
これに対して『乙女文楽』は、この文楽の豊かな表現力を、たった一人の使い手によって可能にした『一人遣い』の形式です。
人形の外形はそのままに構造と使い方が工夫されています。文楽の人形使い五世桐竹門造たちが、昭和の初期に大阪で始め隆盛を極めたと言われています。
今ではなかなか見る事が出来ないと思ひます。ぜひご覧ください。
灯籠流しは、ご先祖の魂をとおんて、灯籠にお盆のお供え物等乗せて海や川に流す、日本古来の行事で、一般的にはお盆の行事の送り火の一種。
今では、川などを汚すのでお供え物は流せないのですが、私達が日々元気で過ごして居られる事をご先祖に感謝致し、これからも毎日笑顔で過ごせることを願ひ、灯籠を流し過ぎよう。
二年前の猛暑の日、せせらぎの東屋で灯籠キットを売っていた私の背後から、「おばちゃんこれいくらですか」と少年の声。「三百円だよ」と答えると、ポケットからコインを3枚出して、はいこれと渡された。「僕は何年生」と聞く。「2年生だよ。僕ね、仮面ライダーになって地球の平和を守るんだ」と言っていて、渡された灯籠のキットを大切にそうに小脇に抱えて足早に去っていった頼もしい2年生。
今年もまた、地球の平和をねがい灯籠を流します。
*一般では灯籠ですが、せせらぎネットワークでは「灯ろう流し」として行います。

各地の祭を訪ねて

子どもたちが歌舞伎の心と技を受け継ぐ

佐藤 克明

農村歌舞伎、いわゆる地芝居の情報を調べてみますと、北海道から九州までの各地に約百八十の団体や継続的な活動を行っている地域があります。その内祭など子どもたちの歌舞伎を上演しているところは三十以上あります。(注)
今年四月末からの連休に、その一つ、岐阜県垂井町(東海道線垂井駅下車)の子ども歌舞伎の総稽古を見せてもらう機会を得ました。中、東、西の三町がそれぞれ異なる演目を、山車の上の舞台で公演するものです。私が見せてもらった中町は、「御所桜堀川夜討弁慶上使の段」でした。

垂井町は中山道の宿場町で、歴史的にも多くの文化財をもち、伝統文化に対する関心も高いものがあり、子ども歌舞伎の稽古を見守る人たちの様子からも、それは強く感じられました。
子どもたちの演技もすっかり身につけていて、堂々たるものでした。
大人歌舞伎があっても、指導者が地元にいるとは限りません。ここは、かなり離れた各務原市から指導者を招いていました。着物の着付け、化粧、演技やセリフに対して、子どもにもしっかりと指示が出され、よい指導者だと思いました。
終わって、着替えて帰る四年生ぐらいの子ども二人が、浴衣に下駄ばきなので、「いつも下駄ばき」と聞いて、「歌舞伎の時だけ」という返事。
なるほど、こうして伝統が受け継がれていくと感じたものでした。



街中を行く山車の上で、子どもたちの真剣な演技

(注) 川崎市は、三年前に日本民家園で都下あきの野市の地歌舞伎公演をした記録しかありません。

井田子ども囃子について

井田囃子保存会 田辺哲夫

せせらぎ祭りのステージ部門に参加させて頂いております井田子ども囃子です。お祭りにはお囃子はつきものですが、本来祭りの囃子は民俗芸能の一つで、祭礼の祭典に從って山鉦(やまぼこ)、屋台(やたい)、傘車(だんじり)などの上で囃す音楽で、神を迎える為の乱声(ががく)の一種であったと考えられ、江戸時代に入って祭礼が風流化するともに、祭りをにぎやかにするという機能を持つようになったようです。(百科事典より)

井田子ども囃子とはというと、もともと井田囃子連として活動してきたメンバーが高齢化し、後継者が育つ前に欠けていき、囃子としての祭礼に立たなくなっていた折、平成8年の祭礼に子母口囃子連の方が応援に来られたのが縁で、その翌年から指導を受けることに話が進んだという経緯があります。

当時井田のメンバーは五十代に入った頃で、話し合った結果、小学生の希望者を募ることになり、ロコミ等で1年生から5年生まで十名余りでスタートしました。子母口からは、斉藤氏、森氏が指導に来られ、週一回のペースで練習がスタート

トしましたが、現在は毎週金曜日、井田神社で午後六時半〜八時半の約2時間の練習をしています。



井田神社祭礼時、山車にて演奏

せせらぎネットワークでは、会員を随時募集しております。

毎年恒例となった「灯ろう流しや秋に開催される「森とせせらぎ祭り」などの行事やその他「の」の広報誌づくりや遊歩

道の維持管理活動など、活動は多岐にわたりますが、当団体も高齢化から逃れることはできないようです。

連絡先 田辺 08034614003

是非参加していただき、快適な遊歩道にしてゆくために、ご協力ください。詳しくは近日中にHPに掲載いたします。

渡辺貞雄さんの直販所：高津区明津47番地

是非残していきたい貴重な空間だと感じます。写真下はナスです。ナスの紫が夏の日差しに映え、輝いていました。
筆者も帰りに早速枝豆を一束200円で購入しました。この値段では味わえない風味を美味しくいただくことができました。感謝したいと思います。
記事編集・本間



それでも写真上のように枝豆はすぐくと育っています。「このあたりはどちらかという粘土質の土なので、乾くと固くなってしまおうとおっしゃっていました。現在収穫している野菜は、枝豆、玉ねぎ、トマト、トウモロコシなどで、この収穫のあと、秋冬にかけてはキャベツ、ブロッコリー、カリフラワーの作付だそうです。

シリーズ地産地消では、中原区・高津区の直販農家を交互に紹介してきました。今回は高津区明津の渡辺さんの直販農家です。
写真は渡辺さんが枝豆を束ねている作業風景です。木陰の比較的涼しい場所です。ご近所へ販売用の枝豆を束ねています。
雨が降らず畑の土はカラカラに乾いています。作物への水やりは以前は水路がありましたが、今は埋め立てられてしまっていて、結構な重労働のようです。

シリーズ地産地消

中原・高津の農家